

八幡先生、大竹文雄、池田和隆、慶應義塾大学教授、日本経済新聞社論説委員、尾光洋、日本経済研究センター理事長

# 日本の外国人労働力

— 経済学からの検証 —

中村二朗・内藤久裕・神林龍・川口大司・町北朋洋著 (日本経済新聞出版社、4,000円)

少子高齢化による急激な労働力人口の減少が予想されるなか、外国人労働者の受け入れが地域経済や日本人労働者にどう影響するかが喫緊の研究課題になっている。ところが、全国の統計データを使って計量分析するほど、外国人労働者の数は多くなく、従来、その検証は外国人集中地域のヒアリングや職場のケーススタディに限られていた。

第二の特徴は最終的には外国人労働者の導入が日本人労働者の雇用条件にどのような影響をもたらしているかを知らないとしながらも、結論を急がず、それに至るまでの過程を複数の道筋に分解し、一つ一つを丁寧に検証し、総合して結論を導いている点にある。

なもなくなった。外国人労働者の多い地域では生産性の低い産業が多く生き残っているものの、社会全体としては競合する日本人労働者にとっても悪影響は起こっていないとの興味深い結論を導く。外国人の導入は工夫次第で低いコストで産業構造の高度化に伴う調整費用を減らす手段となり得ると提言する。

偶然でなく時代をあるという一審案が耳に残った。限らず研究のフロアによって切り込め。しかし森を見るに避け、詳細なことをよって。とは異なり、本にテーマを扱う場を見ることによるものである。

本書は大標本が利用可能な政府統計の個票データを駆使するとともに、情報の不足は自分たちで実施したアンケート調査で補うことで、分析に必要なデータセットを構築し、最先端の推計手法を用いて、外国人労働の影響を定量的に分析した本格的な研究書である。

例えば外国人労働者の導入は、事業主の技術選択や企業の参入・退出、地域の産業構造にどう影響しているのか、日本人の就業や大学進学への選択、キャリアパスや地域間移動にどのような変化をもたらすのか。こうしたテーマを海外の先行研究を参照(そしやく)しながら、日本の統計データを使って精緻(せいぢ)かつ丁寧な分析を行う。こうして導かれた推定結果や提言は地に足の着いた客観的

## 海外研究も加味、丁寧に検証

なかつら・じろう 76年慶応大卒、78年同大大学院商学研究科修士課程修了。武蔵大助教授、東京都立大教授などを経て、04年より日本大大学院総合科

(樋口美雄)

目らの生きる時代かみ、パンフレットを散らすことを任ねばならない」と。学問という学問、済そのものが健全いくために、書物が果たすべき重要な米も変わらなないは。籍の価格は税抜でいます。

第一の特徴は経済理論から導出された仮説の検証に必要なデータセットを、自ら各種の統計調査とリンクさせ、時系列的につなぎあわせて作成し、活用している点にある。それぞれの仮説検証に適したデータを何種類も構築することにより、経済理論と統計データと計量経済手法が三位一体となり、頑健な推定結果と、慎重かつ説得力ある政策提言が導かれていく。



なかむら・じろう 76年慶応大卒、78年同大大学院商学研究科修士課程修了。武蔵大助教授、東京都立大教授などを経て、04年より日本大大学院総合科

企業や世帯、地域などの調査統計に精通した著者らの知見が集積され、それらを十分に使いこなすだけの技能と探究心が兼ね備わって初めてこうしたことは可能になった。



まぢきた・ともひろ 99年東京理科大卒、07年京都大より博士号(経済学)取得。一橋大経済研究所

# 社会的入院」の研究

— 高齢者医療最大の病理に いかに対処すべきか —

印南一路著 (東洋経済新報社、3,600円)

は介護保険上の優遇措置を設けることも必要である。利用者にとってフリーアカ



参加者募集 定員500名

## ●テーマ●

# 資産形成と金